

## ○ 委員長報告

9月定例会本会議で報告された農林水産委員長報告は、以下のとおりです。

令和3年9月定例会

### 農林水産委員長報告

報告いたします。

当委員会に付託されました議案の審査結果は、お手元に配付されております委員会審査報告書のとおりでありまして、いずれも原案のとおり可決決定されました。

以下、審査の過程において論議された主な事項について、その概要を申し上げます。

まず第1点は、えひめ森林公園の再整備についてであります。

このことについて一部の委員から、具体的な事業内容はどうか。また、今後、県民参加の森づくりにどのようにつなげていくのかとただしたのであります。

これに対し理事者から、えひめ森林公園については、魅力向上による更なる誘客促進に向け、令和5年度までの3カ年で再整備したいと考えており、ツリーハウスや空中遊歩道など、新たな木製アトラクションの整備や、PR動画等による情報発信の強化、アウトドアメーカーとの連携による森林体験イベントの実施など、ハード・ソフトの両面から一体的に取り組むこととしている。

今後は、森林公園を拠点に、森と触れ合う活動等を通じて森林・林業への理解を深めるとともに、森林セラピーなどの新たなニーズに対応した環境整備にも取り組み、「とべもり」とも連携しながら、より多くの県民が森づくりに参加できるよう努めていきたい旨の答弁がありました。

第2点は、本県水産物の輸出拡大についてであります。

このことについて一部の委員から、水産物輸出基盤整備事業の具体的な内容はどうか。また、輸出促進に向けての課題と対応はどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、国の「農林水産物・食品の輸出拡大戦略」において、本県がブリとマダイの輸出産地に指定されたことを受け、県では、HACCP施設の整備を盛り込んだ輸出事業計画を策定しており、今回、国の事業を活用し、愛南町の民間事業者が行う施設整備を支援することとした。

また、昨年の県通関ベースの輸出金額は約42億円と、10年前の約3倍に増加しており、新型コロナの影響で金額は一昨年より減少したが数量は上回っている。各国の衛生基準や放射性物質検査への対応等が課題で、HACCP施設の整備等を支援するとともに、県内流通事業者等で組織するオレンジウェブを軸に、オール愛媛体制で輸出促進に取り組んでいきたい旨の答弁がありました。

第3点は、豚熱の予防対策についてであります。

このことについて一部の委員から、本県における豚熱ワクチンの接種の進め方と接種体制についてただしたのであります。

これに対し理事者から、10月1日から、四国中央市を皮切りに、順次、接種を進めることとしており、県内で飼養されている約20万頭の初回一斉接種が完了するには、3、4ヶ月を要すると見込んでいる。

また、接種体制については、家畜防疫員である家畜保健衛生所の獣医師を中心に、県畜産機関の獣医師全48名を総動員するほか、民間獣医師7名を会計年度任用職員として雇用するなど、接種業務を円滑かつ迅速に実施する体制を整えている。

さらに、2回目以降の年間40万頭以上への接種に向けて、家畜防疫員と同等の知識と技術を有すると認められる民間獣医師が接種できる「知事認定獣医師制度」を活用する方向で体制整備を進めている旨の答弁がありました。

このほか、

- ・7月、8月の長雨等による農業への影響と対応
- ・コロナ禍における大都市圏での県産農林水産物の販促活動
- ・ウッドショックによる影響と対応
- ・アコヤガイのへい死の状況と対策
- ・はだか麦の消費拡大

などについても、論議があったことを付言いたします。

以上で報告を終わります。